



国際オンラインジャーナル グローバルテクトニクスの新概念

An international journal for New Concepts in Global Tectonics

日本語版 Vol.10, No.3 (2023年3月) ■ Print edition ISSN 2186-9693
■ Online edition ISSN 2186-8743
<<https://www.ncgtj.org/>>



編集長 : Louis HISSINK (louis.hissink@bigpond.com)
編集委員 : Bruce LEYBOURNE, USA (leybourne@iascc.org)
Giovanni P. GREGORI, Italy (giovanni.gregori@idasc.cnr.it)
Yoshihiro KUBOTA, Japan (yokbt@icloud.com)
Per MICHALESSEN, Mongolia (perm@must.edu.mn)
Lev Maslov, USA (lev.maslov@cccs.edu)

目次

特集号 – 科学的パラドックスの排除

Special Edition – Eliminating Scientific Paradoxes

■ 原著論文 Articles:

Paper 1 (2022a) Golden ratio, fractals, and the arrow of time: Giovanni Pietro Gregori, Bruce Allen Leybourne, Willie Soon, and Valentino Straser

論文1 黄金比, フラクタル, そして時間の矢 不可逆性 vs 可逆性 – 空間, 時間, 反時空 – 物理学の基礎 (要旨)

[久保田喜裕 訳] . . . 2

Paper 2 (2022b) Foundations of physics – I Axioms: Giovanni Pietro Gregori, Bruce Allen Leybourne, Willie Soon, and Valentino Straser

論文2 物理学の基礎 – I 公理 (要旨)

[岩本広志 訳] . . . 3

Paper 3 (2022c) Foundation of physics – II Algorithms and equations, and a comparison with Einstein's theory of relativity: Giovanni Pietro Gregori, Bruce Allen Leybourne, Willie Soon, and Valentino Straser

論文3 物理学の基礎と公理学 – II アルゴリズムと方程式, およびアインシュタインの相対性理論との比較 (要旨)

[岩本広志 訳] . . . 4

Paper 4 (2022d) Foundations – III Superluminal phenomena, mechanisms, matter-antimatter, cosmological implications:

Giovanni Pietro Gregori, Bruce Allen Leybourne, Willie Soon, and Valentino Straser

論文4 物理学の基礎と公理学 – III 超光速現象, メカニズム, 物質-反物質, 宇宙論的意義 (要旨)

[岩本広志 訳] . . . 5

Paper 5 (2022e) Foundations – IV The geometrical representation of symmetries: Giovanni Pietro Gregori, Bruce Allen Leybourne, Willie Soon, and Valentino Straser

論文5 物理学の基礎と公理学 – IV 対称性の幾何学的表現 パリティ, 電磁パルス, チャージ (PEC) の

"メタ多元的宇宙" (要旨)

[岩本広志 訳] . . . 6

■ NCGTジャーナルについて

. . . 8

New Concepts in Global Tectonics ジャーナル 日本語版発行チーム

[連絡先] 久保田喜裕 (yokbt@icloud.com)

[翻訳メンバー] 赤松 陽・岩本広志 (組版担当)・川辺孝幸 (翻訳記事選択)・久保田喜裕 (連絡・組版)・小泉 潔・小坂共栄・小松宏昭・柴 正博 (翻訳記事選択・組版)・宮城晴耕・村山敬真・矢野孝雄 (翻訳記事選択)

[事務局メンバー] 赤松 陽・足立久男 (発送)・金井克明 (会計)・川辺孝幸 (HP)・久保田喜裕 (代表)・佐瀬和義・宮城晴耕・矢野孝雄

原著論文 ARTICLES

黄金比, フラクタル, そして時間の矢 不可逆性 vs 可逆性 – 空間, 時間, 反時空 – 物理学の基礎 (要旨)

Golden ratio, fractals, and the arrow of time Irreversibility vs. reversibility - Space, time, antitime - The foundations of physics

Giovanni Pietro Gregori¹, Bruce Allen Leybourne², Willie Soon³, and Valentino Straser⁴

- 1 IDASC - Istituto di Acustica e Sensoristica O. M. Corbino now merged with IMM-Istituto per la Microelettronica e Microsistemi (CNR) Bologna, Italy, giovannipgregori38@gmail.com
- 2 GeoPlasma Research Institute - (GeoPlasmaResearchInstitute.org), Aurora, CO 80014; leybourneb@iascc.org
- 3 Institute of Earth Physics and Space Science (ELKH EPSS), H-9400, Sopron, Hungary; romeosoon@gmail.com
- 4 Department of Science and Environment UPKL Brussel (B); valentino.straser@gmail.com

(久保田喜裕 訳)

留意事項

本誌収録の5つの論文 (Gregori et al., 2022a, 2022b, 2022c, 2022d, 2022e) は, 20年以上にわたる懸命な思考と批判的考察の結果である。そこには, “一般的に合意された” 感情や確信に反する項目がいくつか含まれている。新しい “型破り” な項目はすべて, 厳密な論理的必要性にもとづいて導入されているが, これまでの一般的な概念を変更し批判しなければならないときには, 不本意な気持ちになるものである。しかし, “科学” にはパラドックス (逆説) は許されない。その結果, 理論物理学の新しい定式化が, 徐々に革新的な結論として導き出されたのである。したがって, 読者はここで提案された定式化に対する評価を述べる前に, この5つの論文セット全体を評価しなければならない。パラドックスを排除するのであれば, どのような代替案も歓迎される。

いくつかの基本的な誤解を考慮に入れ, それを取り除かなければならないことを考えよう。ひとつのカギとなるものは, いわゆるアインシュタインの同時性論 (Einstein's simultaneity argument) の定式化におけるアインシュタインの “誤り” である。この批判はすでに権威ある広い聴衆によって認められており, 二重のパラドックスやノーベル賞さえ不正に授与された Michelson-Morley 実験の失態につながった。ドップラー効果に関する標準的な相対論的公式は明らかに間違っており, これがパイオニアの異常現象を説明する鍵になるかもしれない。同時に, Georges Sagnac に対する “damatio memoriae” は, 物理学の歴史における非常に悲しい1ページであり (Gauguet, 2014), これは, 後に光ファイバージャイロの実現につながった Sagnac 実験の再評価によって, 部分的に補われているに過ぎない (MacKenzie, 1993)。さらに, 意味不明で未だに解決されていない大論争が続いた (Canales, 2015)。さらに, “空間の曲率” の “本質的な物理的” 意義や, “モノド (monad)” と光子の構造 (信じられないかもしれないが, “二重らせん” の概念につながる) の両方の定義を要求するポインティングベクトル (Poynting vector) のパラドックスなど, いくつかの項目について再考する必要がある。ニュートンの力の定義と距離作用 (action-at-a-distance) の定義の本質的な論理的欠陥 (重力信号の伝搬速度が規定されていない) は, 重力の相互作用を扱うあらゆる分野でよく知られた難題である。数学は基礎から論理的含意を導き出すのに適した “言語” に過ぎず, 我々の分析は基礎となる原理と公理に焦点を合わせていることを強調している。したがって, 一般に, 我々は基本原理の本質的な論理的内容を評価したいがために, 複雑な数学的議論に頼ることは避けようとしがちだ。科学は, 複数の著者の批判的な貢献に基づいて, オープンマインドで自由な議論によってのみ進展するものである。よって, あらゆる代替案を歓迎す

るものだが、我々は前述のすべての論理的欠陥を取り除いたと確信している。良心に駆られた科学者は皆、批判的な分析なしに“一般的に合意された”パラダイムに反駁しなければならない。

“神が望まぬ葉は動かん”

“聖ヨハネとパウロの表象”より引用したイタリアの成句 (Lorenzo De Medici 作)

要旨：我々は、いくつかのよく知られたパラドックスを回避する物理学の再定式化を提案する。基本的な論理的枠組みの概要を説明する。後続の論文は、計算の技術的な問題と結果に焦点を当てる。出発点は、経験的制約、実在論、3次元空間、直線である。宇宙はユニークな自然システムである。質量、エネルギー、 $E=mc^2$ は慎重に検討する必要がある。フラクタルと黄金律は現象の不可逆性につながり、時間の定義に重要である。パラドックス回避のためには、自然界が時間を超越した世界、時間、反時間の3重構造であることが必要である。標準的なニュートンのアプローチは、近似と統計に依存しており、個別のサブシステムとそれらの相互作用を参照することを意味する。現象が“基本”法則の重ね合わせであるという仮定は、宇宙の不可逆性とは対照的に、近似的なものである。力、電位、遠方での作用、マクスウェル方程式などは可逆性を扱っている。パラドックス回避のためのこれらのツールは否定しなければならないが、統計的記述にしたがって再定式化する場合には、それらを保持しなければならない。統計学は、モンテカルロ (Monte Carlo) 法の合理性を忘れて、シュレーディンガー (Schrödinger) 方程式、ニュートン方程式、ラグランジュ (Lagrange) 方程式などを導く正しい統計学に頼らなければならない。つまり、ミクロ物理学の厳密な定式化を扱い、マクロ現象を説明するために統計学を参照するのである。

キーワード: irreversibility vs. reversibility - time arrow – absolute reference frame – æther – monads - threefold structure of nature – “upgraded” and “downgraded” entropy – entropy & anti-entropy - lottery and SB statistics - “dark matter” and black hole

物理学の基礎 – I 公理 (要旨)

The foundations of physics - I Axioms

Giovanni Pietro Gregori¹, Bruce Allen Leybourne², Willie Soon³, and Valentino Straser⁴

1 IDASC - Istituto di Acustica e Sensoristica O. M. Corbino now merged with IMM-Istituto per la Microelettronica e Microsistemi (CNR) Bologna, Italy, giovannipgregori38@gmail.com

2 GeoPlasma Research Institute - (GeoPlasmaResearchInstitute.org), Aurora, CO 80014; leybourneb@iascc.org

3 Institute of Earth Physics and Space Science (ELKH EPSS), H-9400, Sopron, Hungary; romeosoon@gmail.com

4 Department of Science and Environment UPKL Brussel (B); valentino.straser@gmail.com

(岩本広志 訳)

要旨：筆者らは、物理学の公理的定式化について、パラドックスを回避し、可能な限り“単純”な公理によって提示する。前論文で一般的な観点を、本論文で公理を、後論文で方程式を扱う。力とポテンシャルは“統計的”な意味を持つものでありこれを放棄する。電磁波と重力の相互作用は、ニュートンの原理を使わずに、ひとつの離散的な“キャリア” (ファインマン・グラフ) で説明される。光子は、正のパリティのミニ光子と負のパリティのアンチミニ光子から構成される。現象は、ここでは速度のないものとして定義され、時間を超越した β -世界の内部で発生する。時折、 β 世界の一部の電磁パルスが物質化し、光速よりも遅い速度で動く

“劣化した”電磁パルスからなる粒子/反粒子となることがある。物質化は β -世界の常套手段である。物質と反物質はそれぞれ α -世界と γ -世界で、時間の矢印を変えながら移動し、最終的には消滅して“アップグレード”した電磁パルス物質になり、 β -世界に帰ってくる。 α -世界(物質)と γ -世界(反物質)にあるすべての電磁パルスサンプルは、互いに複素共役であるが、電磁パルスサンプルによって捕獲されたミニフォトンとアンチミニフォトンの“輪ゴム”を放出する(α -世界ではミニフォトンが、 γ -世界ではアンチミニフォトンが捕獲される)。人間は、経験的制約に適合するように、 α -世界でも γ -世界でも現象を検出することができる。

キーワード: four viewpoints: “Leonardo”, Dirac”, “Einstein”, “Bergson” - independence of every observer - “absolute” reference frame - space curvature and contraction vs. expansion of units – upgraded and downgraded emp - photon, miniphotons, anti-miniphotons, “rubber band”, double helix, chirality - d’Alembert equation and miniphoton polarity - Feynman graph, QED, QCD, symbolic representation - Doppler effect – miniphotons and electric charge, e.m. induction, gravitation

物理学の基礎と公理学 II – アルゴリズムと方程式, およびアインシュタインの相対性理論との比較 (要旨)

The foundations of physics and axiomatics II - Algorithms and equations, and a comparison with Einstein’s theory of relativity

Giovanni Pietro Gregori¹, Bruce Allen Leybourne², Willie Soon³, and Valentino Straser⁴

- 1 IDASC - Istituto di Acustica e Sensoristica O. M. Corbino now merged with IMM-Istituto per la Microelettronica e Microsistemi (CNR) Bologna, Italy, giovannipgregori38@gmail.com
- 2 GeoPlasma Research Institute - (GeoPlasmaResearchInstitute.org), Aurora, CO 80014; leybourneb@iascc.org
- 3 Institute of Earth Physics and Space Science (ELKH EPSS), H-9400, Sopron, Hungary; romeosoon@gmail.com
- 4 Department of Science and Environment UPKL Brussel (B); valentino.straser@gmail.com

(岩本広志 訳)

要旨: 筆者らは、物理学の基本的なグノセオロジ的な枠組みの新しい定式化を提案する。これまでの二つの論文 (Gregori et al. 2022a, 2022b) は、基本的な公理の評価に関するものである。本論文では、アルゴリズムと方程式の形式的な定義を扱っている。アインシュタインの解析との基本的な不一致は、アインシュタインの“取り違い”に依存し、それはマイケルソン-モーリー実験の失態と関連している。保存則は電磁パルスと、電磁パルスのフラックスを適切に重み付けした“一般化された運動量”に言及する。ABCの定理はアインシュタインによって定義されたものであるが、彼はその名前を特に使わなかった。ドップラー効果の公式は重要な問題である。標準的な相対論的公式が確実に間違っていることが示される。いわゆるパイオニア異常は、このような欠点を取り除き、正しい公式を推論するのに適した、現在利用可能な唯一の実験である。続く論文では、いくつかの具体的なポイントや、素粒子の全領域を公理論に含める方法について述べる。

キーワード: algorithms and equations - Einstein “mistake” and the blunder of the Michelson-Morley experiment - conservation laws of emp and of “generalized momentum” - angular momentum – inertia moment – Compton forward scattering - ABC theorem – compression/expansion of units - relativistic Doppler effect - Pioneer anomaly

物理学の基礎と公理学

III-超光速現象, メカニズム, 物質-反物質, 宇宙論的意義 (要旨)

The foundations of physics and axiomatics

III - Superluminal phenomena, mechanisms, matter-antimatter, cosmological implications

Giovanni Pietro Gregori¹, Bruce Allen Leybourne², Willie Soon³, and Valentino Straser⁴

- 1 IDASC - Istituto di Acustica e Sensoristica O. M. Corbino now merged with IMM-Istituto per la Microelettronica e Microsistemi (CNR) Bologna, Italy, giovannipgregori38@gmail.com
- 2 GeoPlasma Research Institute - (GeoPlasmaResearchInstitute.org), Aurora, CO 80014; leybourneb@iascc.org
- 3 Institute of Earth Physics and Space Science (ELKH EPSS), H-9400, Sopron, Hungary; romeosoon@gmail.com
- 4 Department of Science and Environment UPKL Brussel (B); valentino.straser@gmail.com

(岩本広志 訳)

要旨：物理学のグノセオロジー的な枠組みの定式化を提案する。これまでの論文では、公理、アルゴリズム、方程式を扱った。本論文では、具体的な項目について述べている。超光速現象は存在しうが、標準的には、いくつかの銀河はビッグバンの理論的根拠に従って解釈され、一方、銀河は $|v| > |c|$ の速度で地球に向かって爆縮していると考えられる。人間は、ビッグバンの理論的根拠に基づいて観測を考えることも、内向きの流れとして考えることもできる。これは α -, β -, γ -世界のトポロジーの特性から導かれる。時間・反時間の保存に依存する粒子・反粒子の物質化と消滅に関するいくつかの詳細が議論され、それはそれぞれ双子の複素共役な α -世界と γ -世界の共存を意味するものである。異なる物体間の相互作用は、SEA (Steady Exhalation and Annihilation) を通じて起こる。 β -世界の固有性により、すべての emp コンテンツは最終的に逆極性の2つの elmgrain になり、それぞれ β -世界と β -世界に“分解された”emp となる。ダイナミックとアンチダイナミクスは、“ダブルヘリックス”, “シングルヘリックス”, “ブースター” のプレイを通して発生する。したがって、宇宙の歴史は、ほとんど逆説的に、時間を超越した世界で循環的に進行する。最後に、モナドの大きなアンサンブルを同時に考えるときに必要となる “熱力学的” アプローチの本質について議論する。

キーワード: emission, mirror, and environmental Doppler effect - superluminal phenomena - topology of the α -, β -, and γ -worlds - astrophysical and cosmological implications - empirical constraint and conventional representations - conservation law of the flow of time-antitime - SEA (Steady Exhalation and Annihilation) - “double helices”, “single helices”, “boosters” - the golden rule and the mechanisms operative inside a monad - “thermodynamic” computations

物理学の基礎と公理学
IV-対称性の幾何学的表現 パリティ, 電磁パルス,
チャージ (PEC) の "メタ多元的宇宙" (要旨)

The foundations of physics and axiomatics
IV - The geometrical representation of symmetries
Parity, emp, and charge (PEC) "meta-multiverse"

Giovanni Pietro Gregori¹, Bruce Allen Leybourne², Willie Soon³, and Valentino Straser⁴

- 1 IDASC - Istituto di Acustica e Sensoristica O. M. Corbino now merged with IMM-Istituto per la Microelettronica e Microsistemi (CNR) Bologna, Italy, giovannipgregori38@gmail.com
- 2 GeoPlasma Research Institute - (GeoPlasmaResearchInstitute.org), Aurora, CO 80014; leybourneb@iascc.org
- 3 Institute of Earth Physics and Space Science (ELKH EPSS), H-9400, Sopron, Hungary; romeosoon@gmail.com
- 4 Department of Science and Environment UPKL Brussel (B); valentino.straser@gmail.com

(岩本広志 訳)

要旨：物理学の基本的なグノセオロジー的枠組み (gnoseological framework) について、新しい公理的定式化が提案されている。これまでの論文は、基本的な公理、保存則、アルゴリズム、方程式の定義に関わるものであった。また、超光速現象、基本的な相互作用と粒子・反粒子の消滅・物質化の詳細、天体物理学・宇宙論への予想外の示唆、外からしか観察できないモノイド (monads) 内部の法則の規則性など、いくつかの具体的な項目を扱った論文もある。本論文では、現象の対称性を“幾何学的”な概念で“単純”かつ“抽象的に”表現することを考える。その目的は、段階的なアプローチによって、それぞれの共鳴状態を持つ反粒子を含む素粒子の“動物園”全体を含めるために、公理系全体を一般化するのに適した論理ツールを定義することである。

キーワード: symmetries – particle/antiparticle systematics - abstract representation – meta-universe – PEC (parity, emp, charge)

NCGTジャーナルについて

NCGTニュースレター（現在のNCGTジャーナルの前身）は、1996年8月に北京で開催された第30回国際地質学会議でのシンポジウム“Alternative Theories to Plate Tectonics”での議論から始まった。その名称は、1989年にワシントンD.C.で開催された第28回国際地質学会議に関連して開催されたシンポジウムの名称に由来している。NCGTニュースレターは1996年12月に創刊され、2013年にNCGTジャーナルに名称を変更した。NCGTジャーナルの目的は以下のとおりである：

1. 地質学，地球物理学，太陽惑星物理学，宇宙論，気候学，海洋学，電気宇宙論（electric universe），その他，地球の核から大気圏の上部に至るまで，地球上で起こっている物理過程に関連ないしは影響を及ぼしている分野において，新しいアイデアやアプローチを自由に交流するための国際フォーラムを提供すること。
2. 支配的なテクトニックモデルの範疇に収まらない創造的なアイデアのための組織的な目標を創り出すこと。
3. とくに検閲や差別があった場合には，そのような研究の転載と出版の基礎を構築すること。

■ 寄付については，ジオプラズマ研究所のブルース・レイボーン研究部長（leybourneb@iascc.org）まで，お気軽にご連絡ください。NCGTジャーナルへの連絡・通信・原稿掲載には次の方法をご利用ください。

NEW CONCEPTS IN GLOBAL TCTONICS

1. Eメール：louis.hissink@outlook.com, 2. 郵便，航空便など，33 Fields Road, Tanja, NSW 2550, Australia (MS Word か ODT ファイル，図はgif, bmp, tiff フォーマットで別ファイルで，3. 電話 +61 419 283 775. 免責事項：このジャーナルに掲載されている意見，見解，アイデアは寄稿者の責任であり，必ずしも編集者や編集委員会の意見を反映しているわけではありません。NCGT Journal sは国際的査読オンラインジャーナルで，3月，6月，9月，12月に発行されます。英文版 ISSN 番号：ISSN 2202-0039
